

10月20日より4日間休み 香港・マカオへ 本院創設者 父 康二(82)も参加し 職員旅行、活力を付け 皆 今後のひと仕事を楽しみながら 帰って参りました。

“小沢一郎(69)の金の問題” 10月14日 隠しマイクの録音内容まで公開、法律の専門家同士の馬鹿仕合、小沢側の元私設秘書石川知裕衆院議員(38)が 隠しマイクの下誘導 相手の言動を引き出してる... とみると 冷静に判断出来ます。フロッピーディスクの改竄事件 元検事前田恒彦(44)受刑者は 懺悔の姿勢を示しました。“世の矛盾”に活を入れるべく裁く そんな法律家に判決を願いたいものです。

以上、先月11月上旬 送付予定で 11月1日に書き留めた文面です。

何度も アクセスして 何かしらの返答があると期待して、また 榊原医師会の先生方に 9・10月号の 康寿診報が配付されてからと思いきや、時が経過してしまいました。下記 は 昨年 2010.12.20. 康寿診報156号の送付文の抜粋です。

「中国漁船が日本の巡視船に体当たり 故意に衝突した事件」「日本政府のあまりにもお粗末な対応」、「海上保安庁が逮捕した中国漁船、この船長に“謝罪”“賠償”を 求める、当然の“事”であります。これが無く 自国は存在出来るか？ 同等の事が 榊原医師会運営の中委員会 で起りました。大川雅龍編集委員長が船長の 一人乗り漁船が、私という巡視船に体当たりしてきました。大川氏が一方的に 漁船仲間と結託し 身の潔白を主張する その為の上塗り私を攻撃しますが、既成の事実は一つ変わりません。事実を曲げて伝える為に 何度もあった“虚偽”“知ったかぶり”この身近な“事”に対応無き“編集委員”。

こんな状態の中での“心のひろば最終号の巻頭言”、読みながら、過去に何度も在った事ですが、相手の“器”容量に 愕き嘆き 愕然としました。

組織のトップの力量の無さから生じた状況を“マナーリズムを指摘されたことも事実であります”と 己の都合主義で“頓珍漢な把握”のまま 一言で片付けようと企て、私が勇気を絞って何度も 互に指摘した提言、この本質を 噛み砕く事無く 闇に葬ろうとする。

己の内的要因で起った“事”を 訂正も出来ず 解決も成さず、ネガティブな情報 これを抹殺すべく企てた上で、不可能である事を 遅れて知ると、今度は 当時トップの責任と 事務方を引き込み 張本人“自称長老 三人組”が 責任転換を図る、来年の茶番劇であろうか？

歴代の榊原医師会長、“心のひろば創設”の加藤康二元会長、淡々と出来る事をこなされた小田原秀真前会長はじめ、“賞”は無論 “非”の存在、これは 当然にせよ、己の評価を適切に成し事を遂げてきた、これに対し今の状況、医師会長 高木平氏「編集委員会の先生方とも熟慮を重ね話し合った上で...」と とも己の責任の多くの部分を連帯責任に回避する姿勢と示し、更に 編集委員長 大川雅龍氏に至っても、共に “己自身に対する適切な評価”無く、己の都合で、軸足が定まらない状況で物申す事、控えるべきである。

“自然環境の変化による被害”とか、“人々のモラルの低下”“国の政策の貧困さ”等、外的要因であると並べ、どうか文面を纏めているが、“心のひろば 巻頭言”として、最低最悪の最終号と言えるのではないが、こんな状況で終わっていいのか？ 情け無い。

過去半年以上に亘り、トップのモラルの改善を求め、訂正を求め、力を尽くした。

【平成 22 年 12 月 20 日 康寿診報 第 156 号 送付文 より 抜粋】

この一年 遣るべき事・成す事 これは果たした思いです。しかし 私の力不足で 上記の状況 改善されません。ただ 50 歳、己を活かして生きた 大きな年でした。

「継続は力成り」 年末 12月27日 で 51 歳になる自分、「“師”“友”に感謝」己の歩む “歩”は “確”と 考へて、我が町 “吉田町” 私の属す “榊原医師会” 現状況 に対し “確”と 目を向け、情報開示 当たり前の疑問・間違い “確”と 問い、「話す場 大切に」 “事”のけじめを付ける姿勢を前面に、“老害”断ち、各論 この“事”を一つひとつ成し、数カ月後 更に 2・3年 5年 10年後 「成した各論 故の総論」、これを 笑って話す この為、“書”として 過去と成り語れるように、今 正確に 纏める作業、「今 この時 “確”と 物申し 正確に行動する」。当然の帰結です。

Jリーグ ジュビロ磐田 来季も J1、タイトルは成しませんでした。柳下正明監督 退任の後 新監督 森下仁志氏の下、FW 押谷祐樹(22)が復帰、来季を期待します。 康寿診報 162・163 号 送らせて頂きます。

平成 23 年 12 月 11 日

加藤寿夫 通称: 寿 (=寿実寿美)

裏面は 12月9日 榊原医師会忘年会に於いて 提示する “事” 「己の “念・魂” を纏めた文面」です。何回にも亘り 高木平会長に 書面で 願いましたが 「毎回の無言・隠蔽の延長」か 返答無く、最終的に 忘年会当日 5:09PM 増田薫事務長に 電話にて 問い合わせるも 「 “知らぬ存ぜん” の対応」 「意思疎通の出来ぬ状況 足が無く 送れて出席」 “雅寿が仕組んだ” のでしょうか、お蔭で 会長 高木平氏の 挨拶 聴かず 仕舞いでした。

《平成 23 年 12 月 康寿診報 第 163 号 送付文》

ホームページが新しくなりました。 <http://www.katojin.jp> ぜひご覧ください。